

我々はこゝに、不孝の子に対する父の激怒を見るであらう。しかもそれはあまりにも人間的な激情であつた。この激情は、神が選民として生存せしめた、イスラエルの民に対してさえも同様であつた。否、更に一層激発して不良の子に対する父の怒りから、不貞の妻に対する夫の呪咀にさえ転じて行くのである。出エヂプト記や、ホセヤ書にはこれらの生々しい記述がある。

(續く)

### 編輯後記

十月十日の学長猥下米寿記念祝賀会開催の日まで間に合はせ様とした為に、編輯に日がなく、拙劣な結果を見るに到つた事は、学長猥下始め、諸師に対してまことに申し訳なくこゝに深くお詫び申上げる次第であります。特に、時日切迫の為、やむを得ず原稿の後半を割愛させて頂き、次号へ回して頂いた塩田先生には何とも申訳なき次第ですが、编者自身の原稿も次号に回した様な訳で、悪しからず御寛恕をお願いする次第です。

(疋田虔記)

昭和卅一年十月九日 印刷  
昭和卅一年十月十日 発行

編輯人 疋田英肇

発行人 松木本興

印刷人 宮田如龍

甲府市錦町

印刷所 大宣堂印刷所

山梨県身延町

発行所 身延山短期大学